

Quest[®] Migrator for Notes to Exchange 4.13

クイックスタートガイド

MNE クイックスタートガイド

更新 - 2016 年 3 月
ソフトウェア バージョン - 4.13

© 2016 Quest
ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合に限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も Quest の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、Quest はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証（商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む）を否認します。Quest は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本書の使用、または不使用から生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害（無期限、利益の損失、事業中断、情報の紛失も含む）に対しても責任を負わないものとします。Quest は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

Quest
Attn: LEGAL Dept
5 Polaris Way
Aliso Viejo, CA 92656


日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト (quest.com) を参照してください。


商標

Quest および Quest のロゴは、Quest およびその関連会社の商標です。商標や商品名を有する事業体、またはそれらの商品を表すために、他の商標および商品名が本書で使用されている場合があります。Quest は、他社の所有する商標および商品名の所有権を一切否認します。

Microsoft、Windows、Outlook、および Active Directory は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。Office 365 は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。IBM、Lotus、Lotus Notes、および Domino は、世界各地の管轄区で登録されている International Business Machines Corporation の登録商標です。

凡例

 **注意**：注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。

 **警告**：警告アイコンは、物的損害、人身傷害、または死亡事故につながるおそれがあることを示します。

 **重要な注、注、ヒント、モバイル、ビデオ**：情報アイコンは、サポートされる情報を示します。

目次

MNE ドキュメントについて	4
この『管理ガイド』について	4
MNE ドキュメント セットについて	4
その他の情報源	5
製品の概要	6
移行に関する問題点	6
ソリューション : Migrator for Notes to Exchange	6
製品のコンポーネント	7
はじめに	9
アップグレード時の考慮事項	9
Migrator for Notes to Exchange のインストール	10
Migrator for Notes to Exchange のライセンス	11
Migrator for Notes to Exchange の実行	12
インストール後のタスク	12
Migrator for Notes to Exchange のアンインストール	12
概念的な全体の流れ	13
移行プロセスの概要	15
移行前に必要な準備	15
移行プロセス (ユーザー コレクションごと)	17
移行後のクリーンアップ	18
Quest について	19
Quest へのお問い合わせ	19
テクニカルサポートリソース	19

MNE ドキュメントについて

この『管理ガイド』について

この『[クイックスタートガイド](#)』では、Quest の Migrator for Notes to Exchange のさまざまな管理者コンポーネントの操作方法を、各ツールの画面ごとのフィールド定義やアプリケーションの注意事項を示しながら説明します。このガイドは、16 の章と 1 つの付録から構成されています。

- **第 1 章 : Notes Migration Manager** : 各画面の説明とアプリケーションの注意事項を示し、管理者向け中央コンソールの基本的な操作原理について概説します。
- **第 2 ~ 11 章 (各ウィザード)** : Notes Migration Manager から起動可能なすべてのウィザード アプリケーションについて、操作方法と画面ごとのアプリケーションの注意事項を示します。ウィザードごとに章を分けて説明します。
- **第 12 章 : Log Viewer** : Quest プログラムのログ ファイルの表示や内容確認を簡単にする、Log Viewer ユーティリティの操作方法とアプリケーションの注意事項を示します。
- **第 13 章 : Qsched.exe タスクスケジュール設定ユーティリティ** : MNE の *qsched.exe* ユーティリティの操作説明とアプリケーションノートです。このユーティリティは MNE の SQL データベースを定期的にチェックし、最終チェック以降にいずれかのタスクのスケジュールが設定されているかどうかを確認して、検出されたタスクを実行します。
- **第 14 章 : SSDM Scheduling Administration Utility** : エンドユーザーによる Self-Service Desktop Migrator (SSDM) の実行を制御してボトルネックの処理を回避できるようにする、SSDM Scheduling Administration Utility の操作方法とアプリケーションの注意事項を示します。
- **第 15 章 : Office 365 Account Pool Utility** : Microsoft の制限による問題を回避するための、複数の Office 365 管理移行アカウントの同時実行の調整に使用する、Account Pool Utility の操作方法と注意事項などを説明しています。
- **第 16 章 : MNE 用の PowerShell コマンドレット** : MNE の数十件の PowerShell コマンドレットについて、目的、機能、パラメータなど、プロセスの自動化に役立つ関連情報を説明するリファレンスリストです。
- **付録 A : 操作方法** MNE の移行に伴う特定のタスクの手順説明です。

この『[クイックスタートガイド](#)』は、製品をインストールしたり、管理ツールを使用したり、移行プロジェクトのプランニングに携わったりするネットワーク管理者、コンサルタント、アナリスト、およびその他の IT 専門家を対象としています。

MNE ドキュメント セットについて

この『[クイックスタートガイド](#)』は、Quest の Migrator for Notes to Exchange 製品のさまざまな側面を説明するドキュメントの 1 つです。以下のようなガイドが用意されています。

- **クイックスタート ガイド** : MNE の基本目的、コンポーネントと機能、一般的な使用方法のケース スタディなどの、製品の概要と紹介を記載しています。また、ソフトウェアのダウンロードおよびインストールの方法についても説明しています。
- **移行前プランニング ガイド** : 移行プロジェクトを開始する前に、検討 / 対処する必要がある、戦略的および戦術的事項をまとめたチェックリストです。付録では、移行プロセスにおける既知の制限についても説明しています。
- **シナリオ ガイド** : 異なるターゲット環境への移行、およびその他変数や基本設定の移行など、最も一般的な移行シナリオについて説明しています。各シナリオでの MNE ツールや機能の使用方法を説明したプロセス手順やフロー チャートが記載されています。
- **管理ガイド** : 運用上の詳細、アプリケーションに関する注意事項、および MNE の管理者コンポーネントの、各画面のフィールドの説明が記載されています。
- **Self-Service Desktop Migrator ユーザー ガイド** : MNE のコンポーネントである Self-Service Desktop Migrator (SSDM) の操作方法とアプリケーションの注意事項を記載しています。『[SSDM ユーザーガイド](#)』は、管理者がデスクトップ用プログラムを実行するエンドユーザーへ個別に配布できるように、独立した PDF ドキュメントとして提供されます。

- **プログラムパラメータリファレンス** : Task Parameter と Global Default 内のすべての MNE プログラム パラメータ (およびその有効な値)、およびそれを使った各種プログラムの動作の制御方法が記載されています。
- **オンラインヘルプ** : MNE のすべてのウィザードおよびその他のコンポーネント アプリケーションの、フィールド定義やアプリケーションの注意事項に関する状況依存のヘルプです。

SSDM の『[ユーザーガイド](#)』以外のすべてのドキュメントは、製品を使用、その管理ツールを使用、または移行プロジェクトのプランニングに携わるネットワーク管理者、コンサルタント、アナリスト、およびその他の IT 専門家を対象としています。一般的に、『[移行前プランニングガイド](#)』および『[シナリオガイド](#)』では製品の概念的、理論的な側面を説明し、『[管理ガイド](#)』では実践的な情報、画面ごとの説明、フィールドに関する注記などを提供します。また、『[SSDM ユーザーガイド](#)』は Self-Service Desktop Migrator コンポーネントを使用するエンドユーザーまたは管理者を対象としています。

- ① **注** : Quest は、すべての管理者が『[クイックスタートガイド](#)』、『[移行前プランニングガイド](#)』の順にお読みになり、その後『[シナリオガイド](#)』の最初の章を参照することをお勧めします。これらの情報を使って、実際の移行プロセスを開始する前に、詳細な書面による移行計画を策定することができます。実際に移行プロセスを開始する準備が整ったら、『[シナリオガイド](#)』のプロセスの説明と注意事項、およびこの『[管理ガイド](#)』に記載されている操作の詳細を必要に応じて参照してください。

その他の情報源

その他の Quest マニュアル

Migrator for Notes to Exchange の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- **Quest MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration ユーザーガイド** : Quest MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration の紹介、インストール、および操作に関する説明が記載されています。

MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration は、独立した Quest 製品ですが、MNE にバンドルされ、MNE の Autorun アプリケーションからインストールすることができます (前述の『[ユーザーガイド](#)』を含む)。

Quest の *Windows Management and Migration* オンライン コミュニティ

Quest Windows Management and Migration Community は、次の点に関する問題を話し合う専用の対話型のオンラインコミュニティです。

- 電子メール、ID、アプリケーションの Windows Exchange プラットフォーム (業務用および Office 365 のようなホストされた Exchange プラットフォームを含む) への移行。Exchange、GroupWise、Notes からの移行を含みます。
- Active Directory の移行。
- Notes アプリケーションおよび Exchange パブリック フォルダから Sharepoint への移行。
- 共存戦略とツール。

このコミュニティは Quest Migration の専門家とユーザーの協力関係を促進することを目的に作成されたものです。このコミュニティを通じて :

- 製品リリースやベータ版に関する情報を誰よりも早く入手できます。
- Quest 製品のリーダーや移行および共存の専門家との交流。
- ディスカッション フォーラムへの参加、洞察やアイデアの共有をはじめ、一般的な質問に回答してもらうことができます。

フォーラムやライブラリは自由に参照できますが、コミュニティの利点をフルに活用し、新しいスレッドを立て、他のユーザーからのメッセージに応答し、ドキュメントやダウンロードの評価を行うには、コミュニティに加入する必要があります。すでに Quest アカウントをお持ちの場合、または他の Quest コミュニティのメンバーである場合は、サインインするだけです。サインインおよび加入機能はどちらも、[Quest Windows Management and Migration Community](#) のページの右上にあるリンクから利用することができます。

移行に関する問題点

Lotus Notes から Microsoft Exchange への移行における利点はよく知られていますが、通常、移行自体が、細部まで考慮されたプランニングとプロジェクト管理を必要とする複雑なプロセスになります。必要なタスクの高レベルなサマリ チェック リストでさえ非常に長いものとなる可能性があります。移行を成功させる上で処置すべき多数の詳細項目が明らかになります。また、「コレオグラフィ」と呼ばれるタスクの順序、タイミング、および調整も重要です。

この移行というパズルを組み立てていくために役立つ製品やサービスはいくつかありますが、計画から管理、実行に至る移行全般に向けた包括的な、プロジェクト規模のアプローチを提供する体系的な 1 つのツールキットがあればベストです。コンポーネント ツールとパッケージが全体として、広範な移行戦略を達成するのに十分な機能を備えている必要があります。また、次のような重要なプロジェクトの目標に対応できることも必須条件です。

- **Notes システムに保存されている貴重な情報を保護する。**これには、メール、添付ファイル、カレンダー 予定、タスクなどのサーバーに保存されている情報や、アドレス帳やローカル ストアなどの情報が含まれます。理想的には、Notes ローカル ストアを Outlook の個人用領域形式 (.pst ファイル) でデスクトップに移行し、Domino サーバーのデータを Exchange サーバーへ移行します。ヘルプ デスクへの問い合わせをできる限り最小限にとどめるため、移行には高い忠実性が必要であり、移行プロジェクト中および後のいつであってもすべてのメッセージに返信可能である必要があります。
- **移行プロジェクトへのユーザー関与を最低限にとどめる。**ユーザーは、新規メール クライアント (Outlook) を初めて使用する可能性があるため、何らかのトレーニングを行う必要があります。しかし、移行プロジェクトの実行において、管理者はエンド ユーザーの関与を最低限にとどめておく必要があります。
- **Active Directory にユーザー アカウントと配布リストをプロビジョニングする。**Quest の Coexistence Manager for Notes (CMN) Directory Connector では、すべての Notes ユーザーに対し、Active Directory にメール有効のセキュリティ オブジェクトを作成できます。ただし、Active Directory に Exchange メールボックスを作成したり、Notes パブリック配布リストを移動したりすることはできません。Notes システムで稼働するインターネット メールエイリアス (ニックネーム) が、Exchange でサポートされるようにすることも重要です。
- **移行中に 2 つのシステムを共存させる (中規模～大規模企業)。**小規模の企業では、すべてのユーザーを単一のグループとして一度に移行することで、移行期間中に Domino ディレクトリと Exchange ディレクトリを共存させなくても大丈夫です。しかし、中規模～大規模企業 (ユーザー数がおおよそ 400 以上) の場合は、一定レベルの共存環境を提供する必要があります。ユーザーは、他のユーザーの移行ステータスに関係なく、どちらの環境でもメールを送信したりミーティングを計画できなければなりません。
- **移行ターゲット タイプとその他のシナリオ要素のサポート。**ローカルの Active Directory に移行しますか、またはクラウドに移行しますか? ローカル Active Directory はすでに稼働していますか? 「オフライン」または「段階的」移行戦略を検討しますか?

ソリューション : Migrator for Notes to Exchange

Quest の Migrator for Notes to Exchange (MNE) は、Lotus Domino サーバー (Lotus Notes クライアントを使用) から Microsoft Exchange (Outlook クライアントを使用) に移行する組織のさまざまな移行戦略を促進する目的で設計され、連携して動作するソフトウェア アプリケーションのセットです。MNE は、独自型 Exchange 環境または、Microsoft の Office 365 などのホスト型 Exchange サービスのいずれかに移行できます。

Quest ツールは、その他の展開および共存ツールを補助するために設計されており、Notes から Exchange への移行における課題を解決する包括的な統合ソリューションを実現しています。

- **サーバー データの移行 :** MNE では、Notes 環境からメール、予定、タスク、および個人用アドレス帳を移行します。ユーザーは異なるデータ タイプの移行先を Exchange サーバー、または Outlook 個人用フォルダ (.pst) ファイルのいずれかに指定することができます。
- **Notes アーカイブの移行 :** MNE では、一元管理ファイル サーバーまたはユーザーのデスクトップにあるアーカイブを、Outlook の .pst ファイルまたは Exchange サーバーに移行できます。

- **ユーザーの関与** : MNE では、管理者は、ユーザーの関与をまったく必要とせずに、ほとんどすべてのデータを移行できます。一般的な移行の事例では、管理者が、すべてのユーザー データを一括で移行します。一連の移行操作によって、一度に多数のユーザーを移行できます。
- **プロビジョニング** : MNE では、ユーザーの移行時に、ユーザー データを Domino サーバーから抽出し、Active Directory のメールボックス対応のユーザー アカウントに移行します (Quest の CMN Directory Connector などを使用して事前に作成されているメール有効セキュリティ オブジェクトに対応したメールボックスを作成します)。また、移行プログラムでは、ユーザーの Notes アドレスと Notes エイリアスを Active Directory にコピーし、Notes 個人用配布リストを Active Directory に直接プロビジョニングします。
- **共存** : MNE は、両方のサーバーで、ユーザーのメールボックスに自動的にメール転送ルールを設定、更新、および削除するダイナミック メール転送機能を提供します。これにより、移行期間全体を通じて、メール ルーティングが正確に実行されるようになります。他のアプリケーションでは 2 つのディレクトリを同期できますが、MNE の *Directory Export Wizard* では、Quest の移行プログラムがデータの移行やアドレスの変換に使用するデータ ファイルを更新できます。
- **多彩なシナリオのサポート** : MNE は、ローカル Exchange、Office 365、または他の「ホスト型」Exchange ターゲットに移行できます。また、ローカル AD に、またはソース Notes/Domino 環境から Office 365 に、直接プロビジョニングすることができます。MNE には、Office 365 管理アカウントをプールして、Office 365 への総合的なスループットを大幅に向上する特別なユーティリティが含まれています。また、MNE はオフライン移行戦略や段階的な移行戦略もサポートしています。

Migrator for Notes to Exchange を Microsoft の展開ツールや Quest Coexistence Manager for Notes と連携させることで、Notes から Exchange への移行に関連する管理タスクを実行および支援することができます。(Coexistence Manager for Notes は、個別の Quest 製品です。詳細については、『[MNE 移行前プランニングガイド](#)』の「共存」を参照してください)。すべての MNE コンポーネントが、操作オプションをサポートしています。これらのオプションを利用すれば、大部分のネットワーク設定 / 環境 / 設定に最適な移行戦略を、柔軟に策定、実施することができます。

付属する QuestMNE ドキュメントでは、移行プランの作成および管理に向けた真にプロジェクト規模のアプローチについて説明するとともに、幅広い範囲をカバーする包括的な戦略的プランニング トピックのチェックリストが記載されています。さらに、Quest ツールがさまざまな移行シナリオのフロー全体でどのように用いられるのかについて、広範な状況に応じたプロセスフローも説明します。

製品のコンポーネント

Migrator for Notes to Exchange のすべての機能は、次のプライマリ コンポーネントに含まれています。

- **Notes Migration Manager** : 大半の管理者主導のタスクと機能を調整する一元管理「コンソール」アプリケーションです。Notes Migration Manager には、特定のプログラム機能を容易に実行するウィザード (別個にリストで後述) と呼ばれる、特化されたサブコンポーネント アプリケーションが装備されています。Notes Migration Manager には、これらのウィザードに加え、移行プロジェクトに関するほとんどの情報 (プログラムのデフォルト設定とサーバー アクセスの認証情報、Notes/Domino ソース データの格納場所、エクスポートされた Domino データ、移行プロジェクトの状態を追跡する移行統計データ) の監視と管理に役立つ機能が備わっています。
- **Notes Migration Scheduling Application** : スケジュール設定されたタスクを実行する、独立したコマンドライン アプリケーションです。このプログラムは、SQL Server データベースをチェックして、最後のチェック以降にタスクがスケジュール設定されていないかを確認し、設定されていればそのタスクを実行します。
- **Office 365 Account Pooling Utility** : Office 365 へのデータ伝送を大幅に低速化する Microsoft の制限を回避するために、移行管理者がプールされている Office 365 管理者アカウントのコレクションを管理するために役立つユーティリティです。Microsoft の抑制制限は管理者アカウント単位に適用されるため、同時に実行する複数の管理者アカウントを手軽に調整、管理でき、プールに追加したアカウントの数だけスループットを向上することができます。
- **Self-Service Desktop Migrator** : エンド ユーザーが (1 人ずつ) 自分のメールや個人用アドレス帳、アーカイブを移行するために実行する別個のアプリケーション (管理者が、ユーザーの認証情報に基づいて、エンド ユーザーの代わりに Desktop Migrator を実行することもできます)。

- **SSDM Scheduling AdministrationUtility** : 大勢のユーザーが同時に SSDM を実行すると生じる可能性があるボトルネックの処理を回避するため、管理者はこのユーティリティを使用して、エンドユーザーによる Self-Service Desktop Migrator (SSDM) の実行を制御します。
- **Log File Viewer** : ほとんどの Quest コンポーネントでエラーや警告をドキュメント化するために生成される、MNE プログラムのログ ファイルの表示と内容確認を簡素化します。

Notes Migration Manager から起動可能なウィザードは、次のとおりです。

- **NABs Discovery Wizard** : Notes/Domino サーバーを検索し、すべての Notes NABs (名前およびアドレス帳) を検出します。次に、*Directory Export Wizard* と *Internet Domains Discovery Wizard* で NABs から重要なディレクトリ情報を抽出し、その情報は MNE のプロビジョニング、および移行ウィザードに順番に読み込まれて、各ウィザードはタスクを実行します。
- **Internet Domains Discovery Wizard** : NABs Discovery Wizard で検出される Notes の NABs (名前およびアドレス帳) で、検出可能なすべてのインターネット ドメインを抽出します。これらのドメインは、Exchange がユーザーの旧アドレスに送信されたメールを認識して正しく転送できるように、ユーザー全員のアドレス エイリアスを生成するために使用されます。
- **Directory Export Wizard** : Domino サーバーからユーザー情報を収集し、MNE のプロビジョニング、および移行ウィザードに重要な入力データを提供する SQL Server データ テーブルを作成します。このウィザードでは、エクスポート タスクを設定して、直ちに実行されるようにしたり、後で実行されるようにスケジュールすることができます。
- **Collection Wizard** : ユーザーおよびグループ コレクションに含まれるメンバーを定義します。プロビジョニング、移行、およびその他の機能がユーザー コレクションおよびグループ コレクションに適用され、Collection Wizard がこれらのコレクションを定義します。コレクションにメンバーを追加するには、SQL Server データベースからオブジェクトを選択するか、tsv のコンテンツ (タブ区切り形式) ファイルをインポートするか、またはその両方を実行します。
- **Groups Provisioning Wizard** : 指定されたグループ コレクションから Active Directory または Office 365 内に配布グループをプロビジョニング (グループ オブジェクトを作成) するタスクを定義し、そのタスクが特定の時刻または一連の繰り返し時刻に実行されるようにスケジュールを設定します。
- **Notes Data Locator Wizard** : 特定のユーザー コレクションのために Notes ソースでデータ ファイルを検索するタスクを定義したり、以前検索したデータ ストアから統計データを収集したりして、特定の時刻に実行するか、一定の間隔で繰り返し実行するタスクのスケジュールを設定します。
- **Provisioning Wizard** : オブジェクトを Active Directory にプロビジョニングして、重複する AD オブジェクトの Exchange 連絡先からの情報 (ディレクトリ同期により生成) を対応するユーザーの AD アカウントに結合することで統合し、次に連絡先を削除して、AD 内にユーザー当たり 1 つのメール対応セキュリティオブジェクトアカウントを作成します (一般的な共存戦略では、Quest の CMN Directory Connector がディレクトリの更新時に Exchange 連絡先を生成します)。
- **Send PAB Replicator Wizard** : 特定のユーザー コレクション内のユーザーに特殊な形式のメールを送信します。これによって、すべての PAB (個人アドレス帳) を一元管理 Notes サーバー ディレクトリにコピーし、*Data Migration Wizard* が PAB を検索および移行できるようにします。
- **Data Migration Wizard** : 特定のユーザー コレクションのユーザーが実行できるタスクを定義します。
 - Exchange アカウントをメールボックス有効にする。
 - ユーザー データを移行する。
 - メール転送ルールを更新する。
 - 関連するその他の Notes および Exchange 管理機能を実行する。

MNE は、Notes から Unicode でデータをコピーし、Exchange に Unicode で挿入します。Notes ソースの特殊文字セット (MIME データ) を持つデータはすべて、移行後にその文字セットが保持されます。移行機能により、MIME データは Unicode に変換されません。

- **Self-Service Desktop Migration Statistics Collection Wizard** : MNE Self-Service Desktop Migrator により書き込まれた移行統計データを収集し、そのデータを SQL Server データベースに読み込んで、管理者が移行プロジェクトのプロセスを追跡できるようにします。このウィザードでは、データ収集タスクを設定して、直ちに実行されるようにしたり、後で実行されるようにスケジュールすることができます。

はじめに

- アップグレード時の考慮事項
- Migrator for Notes to Exchange のインストール
- Migrator for Notes to Exchange のライセンス
- Migrator for Notes to Exchange の実行
- インストール後のタスク
- Migrator for Notes to Exchange のアンインストール

アップグレード時の考慮事項

新しいバージョンをインストールするために、以前のバージョンをアンインストールする必要はありません（ただし、後述の BES Migration Website をアップグレードする場合は例外です）。MNE アップグレード インストールおよびセットアップは完全に自動化されていて、以前のバージョンによって移行済みのすべてのデータが保護されます。そのため以前のバージョンで移行を中止したところから移行プロセスを再開できます。

- ① **重要**：アップグレード プロセスにより、既存の *pabreplicator.nsf*、*attrs.tsv*、*wte.htm* および *ybm.htm* の各ファイルがファイル名に日付スタンプが追加されてバックアップされるため、元のファイルと同じ名前で新しいファイルが作成されます。
- ① **重要**：MNE では、4.10 より前のバージョンから現行バージョンの BES Migration Website への直接のアップグレードはサポートされていません。4.10 より前のバージョンの Quest BES Migration Website をアンインストールして、現行バージョンを最初から再インストールする必要があります。アンインストール手順は次のとおりです。

Quest BES Migration Website のアンインストールが必要な場合

MNE では、4.10 より前のバージョンから現行バージョンの BES Migration Website への直接のアップグレードはサポートされていません。4.10 より前のバージョンの Quest BES Migration Website をアンインストールして、現行バージョンを最初から再インストールする必要があります。残りの 4.10 より前のインストールは変更しないで、Quest BES Migration Website のみをアンインストールするには、次の手順で現行バージョンをインストールします。

- 1 PowerShell を開いて、次のコマンドレットを実行します。

```
Get-MigrationConfiguration -ServerName <BES Migration Website がインストールされているサーバーの名前> -id "Default settings"
```

-ServerName の一般的な値は、*localhost:4399* です。

このコマンドレットを実行すると、移行構成情報が返されます。この情報には、*ConfigurationGuid* も含まれています（*ConfigurationGuid* の内容をメモしてください）。

- 2 次のコマンドレットを実行します。

```
Export-MigrationConfiguration -ServerName localhost:4399 -id <ConfigurationGuid> -FileName <出力ファイルのパス>
```

- 3 出力ファイルのコピーを作成し、バックアップとして保管します。
- 4 元の出カファイルを開き、ファイルの一番下までスクロールします。次に、[BlackBerry] セクション全体を削除し、ファイルを保存します。
- 5 次のコマンドレットを実行します。

```
Import-MigrationConfiguration -ServerName <BES Migration Website がインストールされているサーバーの名前> -ConfigurationGuid <ConfigurationGuid> -FileName <出力ファイルのパス>
```

- 6 Windows の [コントロール パネル] で、[プログラムの追加と削除] を開き、Quest BES Migration Website のアンインストールを実行します。
- 7 C:\Program Files\Quest Software から Quest BES migration website フォルダを削除します。
- 8 インストーラーを実行して、MNE を現行バージョンにアップグレードします。BES Migration Website は、必ず、MNE と共にインストールしてください。
- 9 インストールが完了したら、Notes Migration Manager を起動して、[BlackBerry Servers] (BlackBerry サーバー) 画面を開き、[Enable] (有効) ボタンをクリックして、Quest BES Migration Website のインストールを実行します。

Website のインストールが完了すると、[BlackBerry Servers] (BlackBerry サーバー) 画面のフィールドがすべて有効になります。

Migrator for Notes to Exchange のインストール

Migrator for Notes to Exchange をインストールするには

- 1 Quest.com Web サイトから *Migrator for Notes to Exchange* の zip フォルダをダウンロードし、すべてのファイルをインストール フォルダに抽出します。インストール フォルダから Autorun.exe を実行します。
(これを実行するのではなく、MNE 製品 CD を挿入してもかまいません。自動的に Autorun ユーティリティが実行されます)。
Autorun ユーティリティが起動し、製品をインストールする前に**前提条件**やすべての MNE ドキュメントを含む製品情報を参照できます。
- 2 環境が、この『*MNE リリースノート*』で規定している**システム要件**、および『*移行前プランニングガイド*』の第 1 章で規定した「**設定要件およびアカウント権限**」を満たしていることを確認してください。必要なサードパーティ製コンポーネントのいくつかは、Autorun の Prerequisites (前提条件) タブにあるリンクから入手できる場合があります。
- 3 インストールの準備ができたなら、Autorun の Install (インストール) タブを選択します。
- 4 *Migrator for Notes to Exchange* の製品名を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。
- 5 ライセンス契約を読んで同意します。
- 6 MNE Installation Wizard の説明に従います。

① **注** : セットアップに Microsoft の再配布可能コンポーネントが含まれている場合は、移行サーバー上でインストールできません。QuestMigrator for Notes to Exchange を使用するには、移行環境に Microsoft SQL Server がインストールされている必要があります。

① **注** : Windows Server 2003 上にインストールしてから Microsoft の再配布可能コンポーネントの 1 つをインストールする場合、セットアップを終了するには *InstallShield Wizard* を閉じるようにダイアログボックスで指示され、プロセスが中断されることがあります。このメッセージが表示されても *InstallShield Wizard* を閉じる必要は**ありません**。**無視** ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じて、セットアップを再開しても問題ありません。

① **注** : QuestMNE では、SQL 2012 Native Client にアクセスする必要があります。移行サーバーに Microsoft SQL Server 2012 がインストールされている場合は、Native Client もインストールされています。Native Client がインストールされていない場合は、Installation Wizard で QuestMNE インストールの最後に、Microsoft SQL Server Native Client をインストールするオプションを選択してください。

7 MNE インストーラが表示する残りの手順とプロンプトの指示を実行します。

① **注:** MNE には、環境をスキャンし、MNE アプリケーションのシステム要件を遵守しているかどうかを特定するウィザードがあります。MNE Prerequisites Checker では、必要なソフトウェアおよび設定、接続、権限、およびアクセス権を確認します。このウィザードは、インストーラの [Finish] (完了) ボタンをクリックする前に、チェックボックスをオンにすると、MNE インストーラの終了ページから自動的に起動できます。

[] セットアップが終了したら、Prerequisites Checker を起動します。

Windows の [スタート] メニューの [Quest] の [Migrator for Notes to Exchange] グループから個別に実行することもできます。Prerequisites Checker のログ ファイルは、`%SystemDrive%\ProgramData\Quest\` に書き込まれます。

最後の画面の [Finish] (完了) をクリックして、インストールを完了します。MNE Installer が終了して、Autorun ユーティリティの [Install] (インストール) タブに戻ります。[Prerequisites Checker] チェックボックスをオンにすると、Prerequisites Checker のウィザードが (別ウィンドウで) すぐに実行されます。

8 必要に応じて、Autorun の他のタブを参照できます。

9 Autorun の他のタブを参照したら、(ウィンドウの右上隅にある) [X] (閉じる) ボタンをクリックして Autorun ユーティリティを閉じます。

10 任意選択の MNE タスク スケジュール機能を使用する場合は、『MNE 管理ガイド』の「付録 A」の「タスクのスケジュールを設定するには」セクションに記載の手順に従って、MNE Task Scheduler が設定されていることを確認します。

MNE コンポーネントを設定または実行する前に、「Migrator for Notes to Exchange のライセンス」を参照してください。

① **注:** **ロケール固有の設定:** また、英語以外の Lotus Notes 環境からの移行を行う場合は、特定の表示要素のために英語以外の適切な値で *Data Migration Wizard* と SSDM の両方を設定する必要があります。『管理ガイド』の「付録 A」の「MNE で英語以外の Notes ロケールを設定するには」を参照してください。

Migrator for Notes to Exchange のライセンス

Quest の Migrator for Notes to Exchange は、有効なライセンス キーが付与されているアプリケーションを必要とする従量使用製品です。MNE ライセンス キーは、MNE の *Notes Migration Manager* コンポーネント内にインストールされます。

Quest では、移行するユーザー数に応じたライセンス キーを販売しています。この制限に達すると、ソフトウェアは移行済みのユーザーに対しては表面上は引き続き機能しているように見えますが、それ以降ユーザーは移行されません。特定のユーザーのすべての機能 (プロビジョニング、転送、移行など) に同じライセンスが使用されます。プログラム機能が各ユーザーに初めて適用されると、ユーザー ライセンスの数がその分だけ増えていきます。つまり、任意の MNE コンポーネントの任意の機能が特定のユーザーに適用されている場合、すべてのコンポーネントのすべての機能を同一のライセンスを使用している同一のユーザーに適用できます。また、必要に応じて、オリジナルのライセンスを使用して、ユーザーを再移行することができます。再移行には、追加のライセンスは必要ありません。

ライセンス キーの取得または追加については、Quest Software セールスの担当者までお問い合わせください。評価版、永久版のいずれも、ライセンス キーは *NotesEX_4-###-#####.asc* というファイル名形式 (###-##### は固有のライセンス番号) です。

製品はライセンス キーがなくてもインストールできますが、ソフトウェアを初めて実行するときに、ライセンス キーを適用するように要求するメッセージが表示されます。Quest から提供されたライセンス キー ファイルを検索し、ライセンス キーを適用するように求められます。Browse (参照) 機能を使用して、.asc ライセンス ファイルを検索し、指定します。

評価版（トライアル版）ライセンスの目的は、データを使用して MNE ソフトウェアを実際に使用し、MNE の機能がニーズに適合するかどうかをお客様にご判断いただくことです。そのため、評価版 / トライアル版ライセンスでは、「MIGRATION EVALUATION」（移行評価）というプログラムスタンプがすべての移行後のメッセージの *Subject*（件名）の前に付き、さらに、次の制限が適用されます。

- 2 週間以上先のカレンダーアイテムは、移行されない。
- 個人用アドレス帳の移行時に移行できるのは、個人用アドレス帳 1 つにつき 5 件の連絡先と 5 個のグループのみ。

① **注**：ほとんどの環境では、Quest ライセンスを MNE にインストールする前に UAC（User Account Control : ユーザー アカウント制御）を無効にする必要があります。

Migrator for Notes to Exchange の実行

Notes Migration Manager を起動すると、Migrator for Notes to Exchange によって移行サーバーが MNE データベースに接続されているかどうかチェックされます。接続されていない場合は、データベース接続を確立する必要があります。

QuestMigrator for Notes to Exchange を起動するには：

- 1 スタートメニュー、すべてのプログラム、Quest、Migrator for Notes to Exchange、Migration Manager の順に選択して、Notes Migration Manager を起動します。
- 2 指示に従って SQL の認証情報を入力し、[Apply]（適用）ボタンをクリックします。

Migrator for Notes to Exchange データベースが指定した SQL Server で検出されない場合、SQL Server に必要なデータベース テーブルをインストールするように指示されます。適切な SQL Server を選択したら、[OK] をクリックして SQL Server に必要なデータベース テーブルを設定します。

インストール後のタスク

Migrator for Notes to Exchange では、特定のアクセス権が割り当てられたディレクトリを使用する必要があります。検索、プロビジョニング、および移行タスクの実行前に、必要なディレクトリを作成する必要があります。次のディレクトリは、後述するアクセス権と共有される必要があります。

- **一括インポート ディレクトリ**：SQL Server が読み書きできるディレクトリ。
- **管理者ログ ディレクトリ**：管理者ツール（*Migration Manager* とウィザード）が読み書きできるディレクトリ。
- **標準アプリケーション ディレクトリ**：管理者ツールに共通するコンポーネントとデータ、および SSDM が保管されているディレクトリ。移行管理者にはこのディレクトリの読み取り / 書き込み権限が必要です。一方、管理者以外の SSDM ユーザー全員のアクセス権は、読み取り専用を設定します。
- **デスクトップ移行ログ ディレクトリ**（省略可能）：ユーザーが Self-Service Desktop Migrator を実行してローカル データストアと暗号化されたデータを移行するとき、デスクトップでの移行実行からログを収集するために使用されるディレクトリ。SSDM を実行するユーザーは、移行結果を転記するためにディレクトリへの書き込みアクセス権が必要です。

Migrator for Notes to Exchange のアンインストール

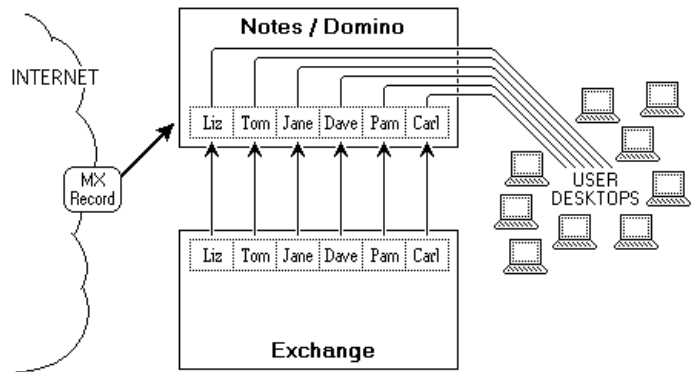
Migrator for Notes to Exchange をアンインストールするには

- 1 Windows の [スタート] メニューから [設定]、[コントロール パネル] の順にクリックします。
- 2 [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 [Migrator for Notes to Exchange] を選択し、[削除] をクリックします。

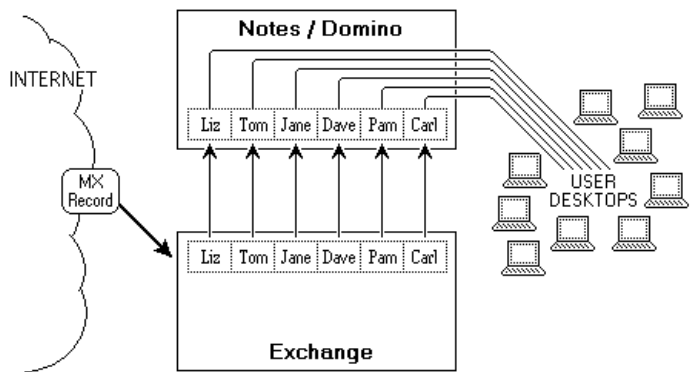
概念的な全体の流れ

Migrator for Notes to Exchange は、幅広い移行シナリオをサポートしています。ここの高レベルな説明は、代表的な移行例で、複数バッチ移行作業の過程における、プロビジョニング、メールのルーティング、およびデータ転送の相互作用を表しています。

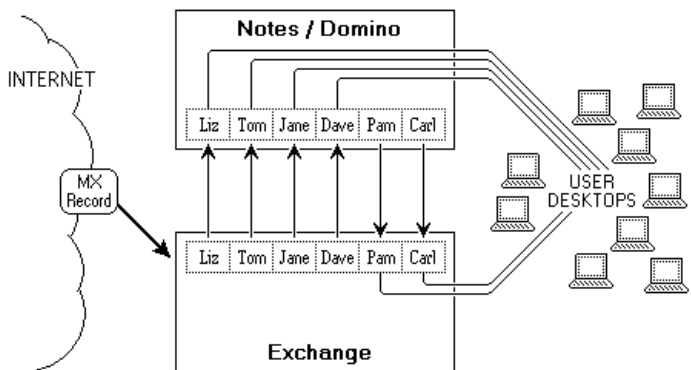
Quest の CMN Directory Connector (またはその他の方法) によるディレクトリの更新では、Domino ディレクトリからデータを抽出し、メール有効のユーザー アカウント (連絡先) を Active Directory に作成します。ただし、Exchange ユーザー メールボックスはまだ作成されていません。AD のユーザーレコードには、ユーザーの現在の Notes アドレスが含まれています。そのため ...



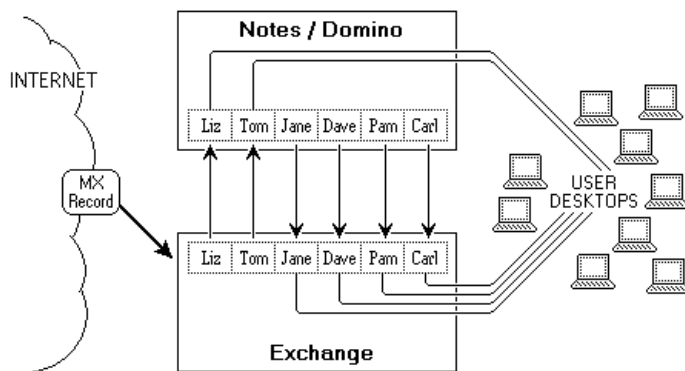
... 最初のユーザーを移行する前に受信メールを新規サーバーへ送るよう MX レコードを変更した場合、Exchange はインターネットメールをユーザーの Notes メールボックスにルーティングできます。



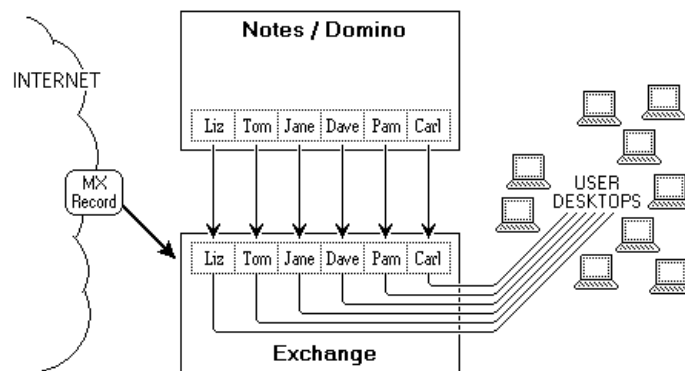
MNE の Data Migration Wizard では、移行するユーザーの Active Directory アカウントをメールボックス対応にします。さらに、すでに移行されたユーザーの Notes アドレス宛てのメールを、アクティブになった Exchange メールボックスに転送するように、メール転送ルールを設定します。



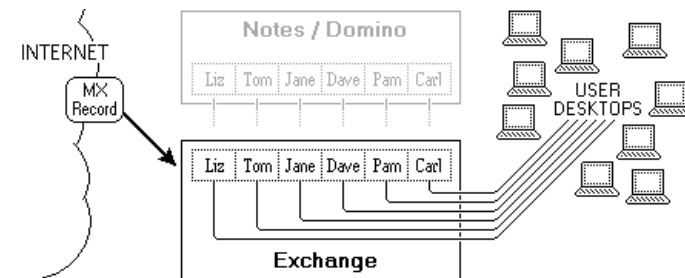
このプロセスは、各ユーザーグループを新規サーバーに移行するたびに繰り返されます。



最後のグループが Exchange に移行されたら ...



... 旧 Domino サーバーを廃止できます。



移行プロセスの概要

- ① **注:** ここで説明する簡潔な内容は、『MNE シナリオ ガイド』に記載されている詳細かつ段階的な操作説明の代わりにはなりません。ここでは、Migrator for Notes to Exchange の概要とそのコンポーネントが通常使用される状況について理解することのみを目的としています。段階的な移行プロセス手順の詳細については、『シナリオ ガイド』を必ず参照してください。

このセクションでは、Migrator for Notes to Exchange を使ってローカルの独自型 Exchange ターゲットに移行する標準的な移行例を、簡単に説明していきます。この手順の詳細とフロー チャートは、『MNE シナリオ ガイド』の第 2 章に記載されています。このシナリオでは、ユーザーによる入力や操作は行わずに、管理者が一連のユーザー グループを移行します。Self-Service Desktop Migrator を使用する必要はありません。

このシナリオは、移行先環境が Exchange 2010 以降であり、Quest の Coexistence Manager for Notes (CMN) を使用して、ディレクトリの更新、メールルーティング、およびメールの修正と、カレンダーおよび空き時間情報の共存を促進することを前提としています。(CMN は、個別の Quest 製品です。)MNE は、Office 365 への移行もサポートしています。詳細は、『シナリオ ガイド』の第 3 章を参照してください。

ここで説明するアプローチはさまざまな移行で使用されるものですが、それぞれの設定、環境、および組織の優先順位によっては、このプロセスを変更する必要があります。Migrator for Notes to Exchange では、適切な移行戦略の考案および実装を柔軟に実行できる、運用オプションが多数用意されています。さまざまな移行シナリオにおける MNE ツールの使用方法の詳細については、『Quest シナリオ ガイド』を参照してください。ここでは、作業の流れを把握しやすいように、『シナリオ ガイド』のフロー チャートも記載しています。

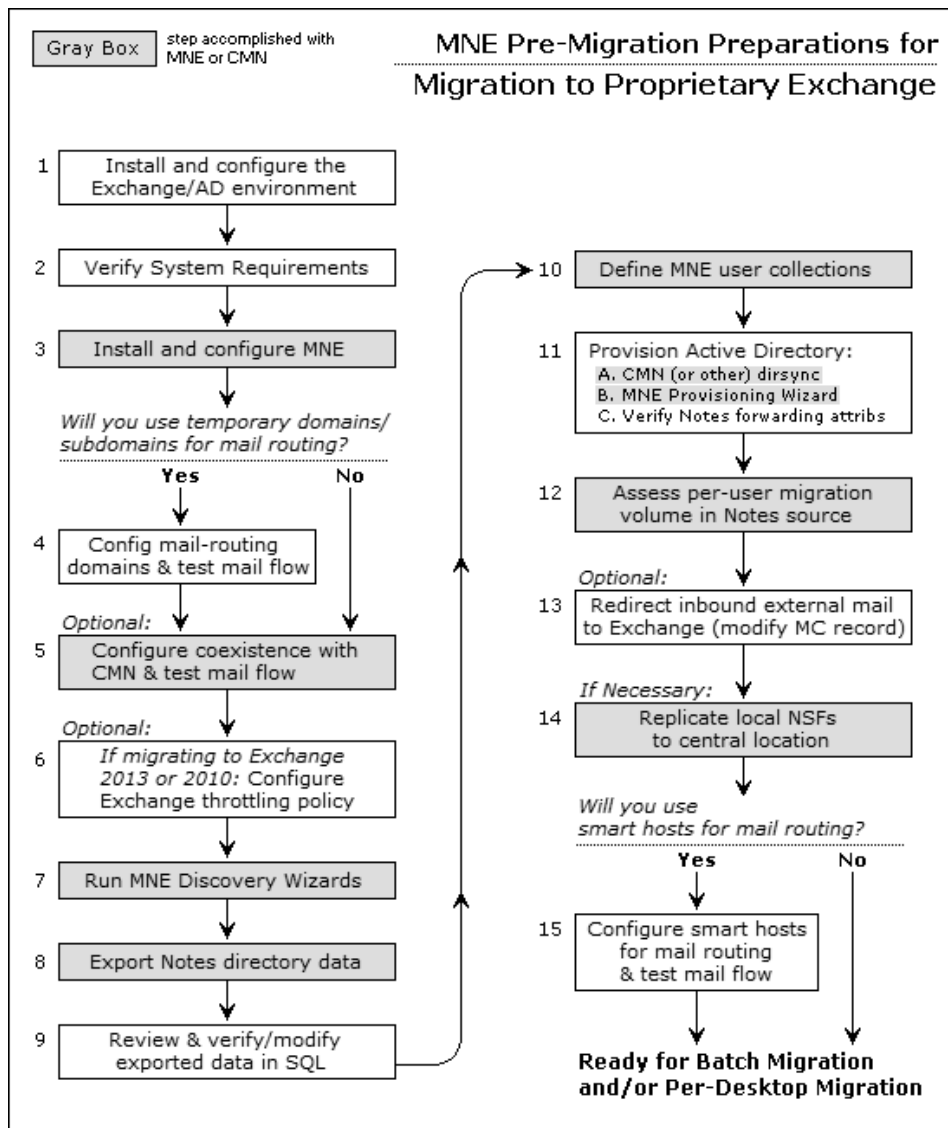
移行前に必要な準備

プロセスは、Lotus Domino サーバーの既存のユーザー アカウントとメール ボックスから開始します。移行先の Exchange サーバーは異なるコンピュータでセットアップされており、移行プロセスでは、両方のサーバーに管理者アカウントが必要です。Microsoft Outlook がユーザーのデスクトップにインストールされている必要があり、QuestMigrator for Notes to Exchange が管理者の移行コンピュータにインストールされている必要があります。

また、Quest の Coexistence Manager for Notes (CMN) もインストールし、Directory Connector を実行することで、ソースおよびターゲットのサーバー間でディレクトリの更新を実行します。このプロセスで、Active Directory 内にすべての Notes ユーザーの、メール対応アカウント (連絡先) が作成されます。CMN Directory Connector はメールボックスを作成しませんが、ディレクトリの更新によって新しいメール有効の連絡先が Active Directory でプロビジョニングされ、ユーザーの既存の Notes アドレスと、それに対応する新しい Active Directory オブジェクトの関連付けが行われます。Exchange はこれらのユーザーの Notes アドレス宛てのメールを受信し、直ちに Domino サーバ上の対応するメールボックスルーティングできるため、Active Directory 内の新規オブジェクトは、「メール有効」と呼ばれます。

このシナリオでは、ユーザーが一連のコレクション (ユーザー グループ) で移行されますが、それには数週間もの期間がかかります。そのため、移行期間全体を通じてメール転送を許可するようなメール共存方針が必要です。移行期間中は、Exchange へすでに移行されたユーザーと Domino 上で移行を待機しているユーザーが存在します。ここでは、メールルーティングに SMTP メソッドを使用することを選択し、単純な単一メインアプローチを採用しています。そのため、この方式を容易に実行できるように、各環境でスマートホストを設定します (これらのすべての共存方法とその代替手段に概要は、MNE の『移行前プランニング ガイド』に記載されています。)SMTP メールルーティングの設定を完了したら、MX (Mail eXchange) レコードを編集して、外部 (インターネット) メールを Exchange 環境に転送するように指示します。まだユーザーは移行されていませんが、すべてのユーザーが Active Directory でプロビジョニングされてメール有効になっているため、すべての着信インターネットメールは、当分の間、対応する Notes メールボックスへ直ちにルーティングされます。

次に、MNE の Notes Migration Manager を実行し、Notes 環境に関する情報を収集します。Notes Migration Manager から Name & Address Book Discovery Wizard を起動し、Notes ディレクトリが記述されている Notes NAB (公開アドレス帳) ファイルを検索します。次に、Internet Domains Discovery Wizard を実行し、Notes システムで使用中の Notes ドメインとインターネット ドメインのすべてのリストを生成します。Directory Export Wizard では、Notes 環境のすべてのユーザー、連絡先、リソース、および配布リスト (グループ) が検索されます。



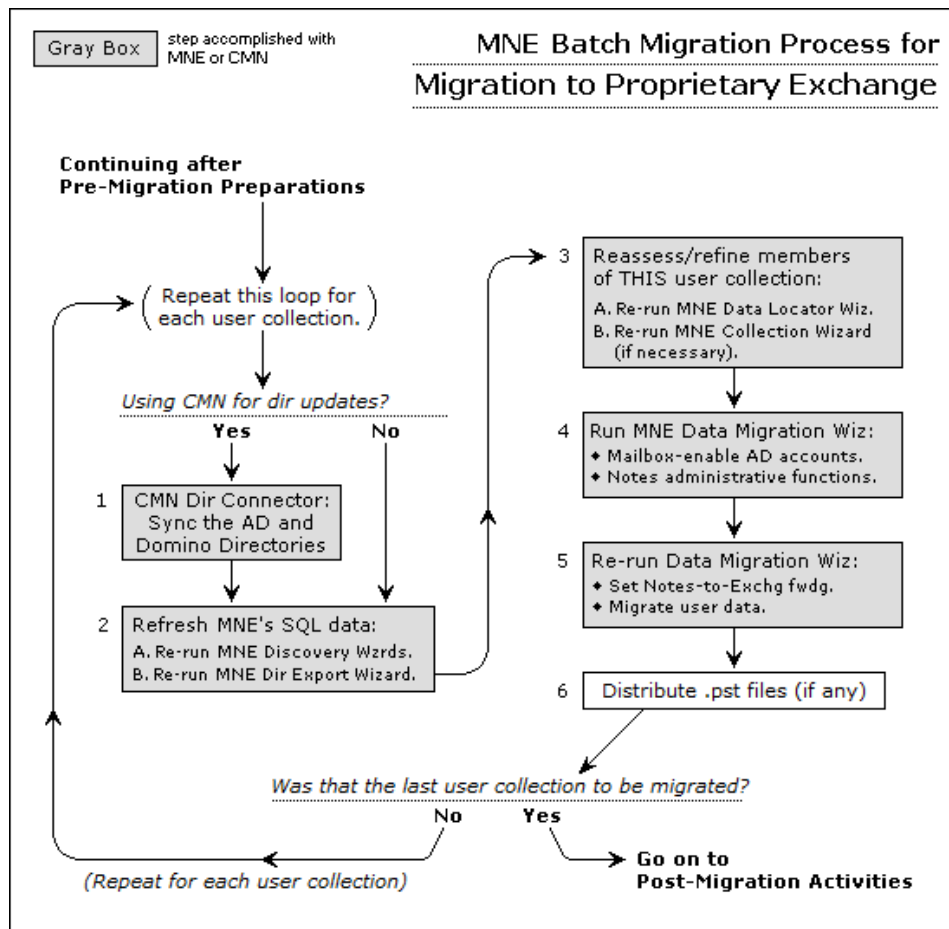
これらの検索およびエクスポート ウィザードは、MNE ウィザードおよび移行プロセスが使用する機能が必要とするデータ セットを生成、保存します。

MNE のプロビジョニング、移行、およびその他の機能は、ユーザーと配布グループのコレクションに適用されます。コレクションとは、Directory Export Wizard によって Notes/Domino 環境で検出された、ユーザーやグループの領域を表す定義済みのサブセットです。これらのコレクションは、Collection Wizard で作成されて特徴付けられます。そのため、ここでウィザードを実行し、ユーザーおよびグループのコレクションを定義します。このシナリオでは、CMN の Directory Connector を実行する前に、Active Directory がすでにオンになっており、ユーザー アカウントで実行されているため、作成された新しい Exchange の連絡先は、同じユーザーに対して既存の Active Directory ユーザー アカウントと共存することになります。Migrator for Notes to Exchange には、データの移行前にこのような重複を統合できる Provisioning Wizard が用意されています。マージ プロセスでは、Notes ディレクトリからエクスポートされたデータが必要なため、Provisioning Wizard を実行し、エクスポートされるすべての Notes ユーザーに対してマージを実行します。

ユーザーのアーカイブと個人用アドレス帳は、このシナリオではローカル ハード ドライブに保管されているため、集約化されてアクセス可能な場所へ移行前にユーザーをコピーして、Data Migration Wizard で検索できるようにします。MNE には、エンドユーザーの PAB に対してそのようなプロセスで自動化する、*PAB Replicator Wizard* が用意されています。ファイルをコピーしたら、Locate Data Stores Wizard を実行し、移行前に Notes のメール ファイル、アーカイブ、個人用アドレス帳をすべて識別します。管理者は Notes Migration Manager を使用して、収集されたデータから移行するデータの量を確認および評価できます。

移行プロセス（ユーザー コレクションごと）

前のセクションで示したタスクと条件は、最初のユーザー コレクションの前提条件となります。



Directory Export Wizard を最後に実行してから、組織でスタッフの追加や変更があった場合は、Data Migration Wizard を実行する前に 2 つの更新タスクを実行する必要があります。

- CMN の Directory Connector を再度実行して、Notes と Exchange のディレクトリを更新する。
- Directory Export Wizard を再度実行して、MNE の SQL データベースを更新する。

コレクションの準備が整ったら Data Migration Wizard を 2 回実行し、現在のコレクションで定義されているユーザーに対して複数のタスクを実行します。(これらのタスクを 1 回のプログラム実行で処理しようとした多くの管理者から、遅延競合が報告されています。) 最初の実行では、前にメール対応オブジェクトとしてプロビジョニングされた、現在のコレクション内のユーザーを、メールボックス対応 (メールボックスを作成する) にします。この最初の Data Migration Wizard の実行では、シナリオに対して適切な任意の管理機能も実行します。次に 2 回目の Data Migration Wizard 実行を開始して、ユーザーのデータを Notes から Exchange に移行して、メールを古い Notes メールボックスから新たな Exchange メールボックスに転送するための設定を行います。

Migrator for Notes to Exchange は、Notes から Unicode でデータをコピーし、Exchange に Unicode で挿入します。Notes ソースの特殊文字セット (MIME データ) を持つデータはすべて、移行後にその文字セットが保持されます。移行機能により、MIME データは Unicode に変換されません。

Data Migration Wizard によってデータが Outlook 個人用フォルダ (.pst) ファイルに移行される場合は、このコレクションの移行完了後、次のいずれかの操作を行います。

- ユーザーに、新しい .pst ファイルの場所を通知します（これにより、各ユーザーは、自分のデスクトップにある Outlook のコピーの場所を指定できます）。

または

- 新しく作成された .pst ファイルをユーザーのデスクトップに配布する。

このプロセスは、移行するユーザーのコレクションごとに、CMN の Directory Connector の再実行（必要な場合）から繰り返します。

移行後のクリーンアップ

最後のユーザーを新しい Exchange サーバーに移行したら、MNE の Groups Provisioning Wizard を実行して、Notes グループを Active Directory に配布グループとしてプロビジョニングします。グループ情報は、MNE の *Directory Export Wizard* により、前に Domino ソースから抽出され、SQL データベースにコピーされています。

必要に応じて、ソース / ターゲット ディレクトリ間の、ディレクトリ同期を設定する場合があります。次に、ユーザーとグループをすべて移行したら、外部着信（インターネット）メールを Exchange に転送するように、メールのルーティングを変更し、内部的なメールのルーティングに使用していたスマート ホストを削除することができます。

最後に、Notes/Domino 環境が不要になったら、従来の Domino サーバーがメールトラフィックを処理しなくなったことを確認し、一時的な migrate.domain.com ドメインを削除して Domino サーバーを廃止します。

Quest は、お客様の声に耳を傾け、お客様の信頼に応えて、価値ある革新的なテクノロジー、ビジネス ソリューションおよびサービスを世界中に提供しています。詳細については、「www.quest.com」を参照してください。

Quest へのお問い合わせ

販売またはその他のお問い合わせは、「<http://quest.com/company/contact-us.aspx>」を参照するか、1-949-754-8000 までお電話ください。

テクニカルサポートリソース

テクニカル サポートは、有効な保守契約が付属する Quest ソフトウェアを購入している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。サポートポータルを利用するには、「<https://support.quest.com>」にアクセスします。

サポートポータルには、問題を自主的にすばやく解決するために使用できるセルフヘルプツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。また、ポータルでは、オンライン サービス リクエスト システムを使用して、製品サポート エンジニアに直接連絡することもできます。

サイトでは次のことを実行できます。

- サービス リクエスト（ケース）の作成、アップデート、および管理
- ナレッジベース記事の参照
- 製品に関するお知らせの入手
- 入門ビデオの閲覧
- コミュニティ ディスカッションへの参加
- サポート エンジニアとのチャット